

「置賜地区における中高剣道継続率についての現状把握と継続率上昇に向けた一考察」

山形県高等学校体育連盟剣道専門部

山形県立米沢興讓館高等学校

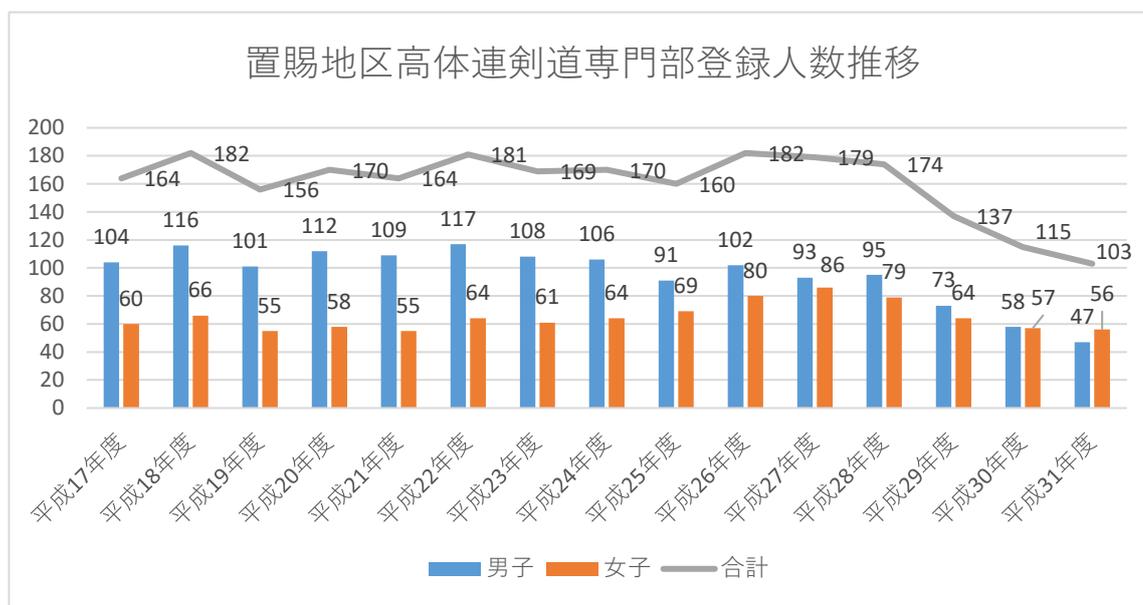
五十嵐弘一

1 はじめに〈研究の目的〉

昨年度まで置賜地区高体連剣道専門部理事として、8年間に渡り山形県や地区の剣道に関わる環境を学ばせて頂いた。その中で、県全体として少子化に伴い、各地区の高校剣道人口減少が進み、5人戦で行われる団体戦のチームが組めず、合同チームや5名に満たない単独チームでの参加が年々増加している。特に県新人大会女子団体においては、参加校が少なく平成30年度まで行ってきた組み合わせ方法では、リーグ戦・トーナメント戦の組み合わせが出来ない状況にまで減ってきている。

本地区においても、特に3年生が引退してから行われる地区新人体育大会においては、5名に満たない単独チームや他校との合同チームでの参加が増加傾向にあり、全体の登録人数も減少傾向にある。

まずは、右記グラフで平成17年度からの置賜地区高体連剣道専門部の登録人数の推移を観て頂きたい。



平成29年度より急激に人口減少が加速して

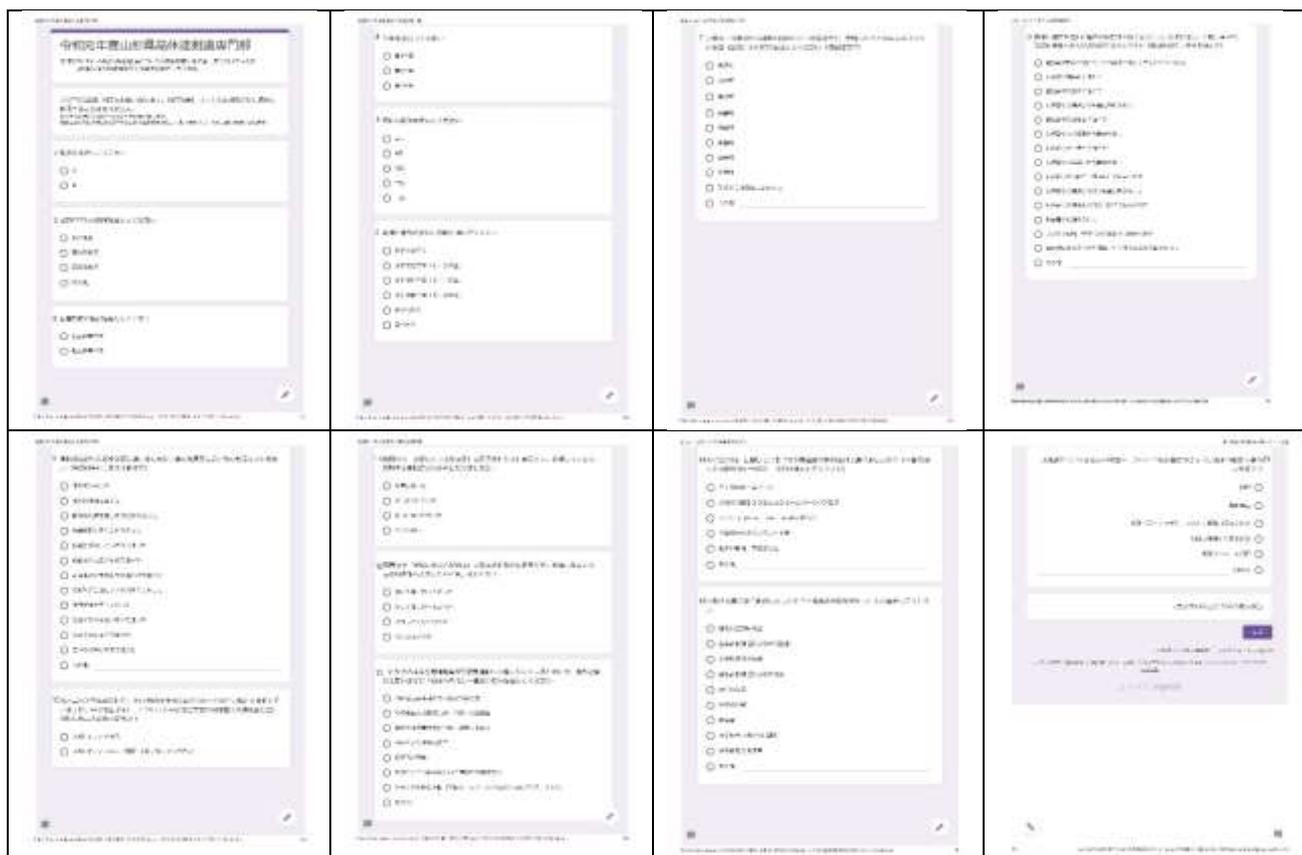
いるのが解る。さらに、本年度の置賜地区内中学3年生の剣道人口も少なく、さらに減少傾向が続くと予想される。したがって、高校入学後の剣道継続率や初心者の入部を勧める方策が必要だと思われる。

また、本地区高体連剣道専門部では、地区剣道連盟と共催で開催している地区冬季高校剣道大会後に、ほぼ毎年、置賜地区中体連との合同事業を行っている。内容は高校生と中学生との試合練習や高校教員による基本稽古指導等である。高校生が試合後に中学生に助言したり高校教員が稽古を通して中学生に剣道の魅力を伝えたり、各高校剣道部の雰囲気等を伝える場にして、中体連と協力しながら剣道継続率を高めようと開催してきた。この実施が、現高校生にはどのように受け止められているのか、この事業が中学校から高校への剣道継続率を伸ばす結果になっているのかも知りたいと思っていた。

そこで、本研究では置賜地区高体連剣道専門部に所属している生徒の入部の経緯や上記高体連と中体連との合同事業について、アンケート調査で実態把握し今後の高校剣道人口増加の為の一助としたい。

2 研究の方法〈研究の手順〉

- (1) 調査方法 本校剣道部員に協力を仰ぎ、質問項目の編集を夏ごろから行った。まとまった質問項目をGoogle Formsを用い、アンケート形式にて作成し印刷。用紙を各高校に配布し調査した。
- (2) 調査対象 置賜地区高体連剣道専門部所属剣道部員（1年生から3年生）
- (3) 調査期間 令和元年11月～令和2年1月
- (4) 調査内容 以下にアンケート用紙を張り付けるが、調査内容の質問項目については、「結果」で詳細に触れることとする。
データの分析については、出来る限りクロス集計を行い、男女別や出身地域、スポ少在籍経験などで高校剣道継続理由等に変化があるか調べたい。



3 結果と考察

(1) 結果

① アンケート調査の集計結果

ア 置賜地区登録人数 103 名に配布し、97 名分を回収できた。

イ アンケート質問項目と集計結果

質問	選択肢	集計
1 性別	1 男	44
	2 女	53
2 出身中学校地域	1 米沢地区	42
	2 東置賜地区	25
	3 西置賜地区	26
	4 その他	4
3 在籍高校種別	1 公立高等学校	68
	2 私立高等学校	29
4 学年選択	1 第1学年	39
	2 第2学年	34
	3 第3学年	25

1 性別

■ 男 ■ 女



2 出身中学校地域

■ 米沢地区 ■ 東置賜地区 ■ 西置賜地区 ■ その他



3 在籍高校種別

■ 公立高等学校
■ 私立高等学校



4 学年

■ 第1学年 ■ 第2学年 ■ 第3学年



5 現有段位	1	無し	5
	2	1級	4
	3	初段	0
	4	二段	48
	5	三段	40
6 剣道開始時期	1	小学校就学前	3
	2	小学校低学年	18
	3	小学校中学年	20
	4	小学校高学年	10
	5	中学校	40
	6	高等学校	6

5 現有段位

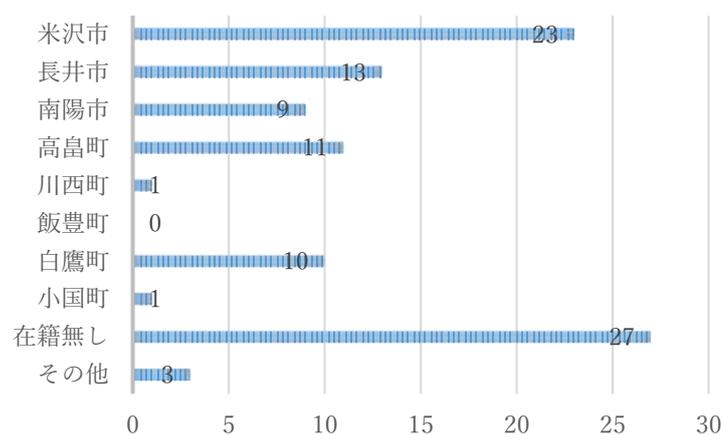


6 開始時期



7 スポ少在籍の有無 (複数回答)	1	米沢市	23
	2	長井市	13
	3	南陽市	9
	4	高島町	11
	5	川西町	1
	6	飯豊町	0
	7	白鷹町	10
	8	小国町	1
	9	在籍無し	27
	10	その他	3

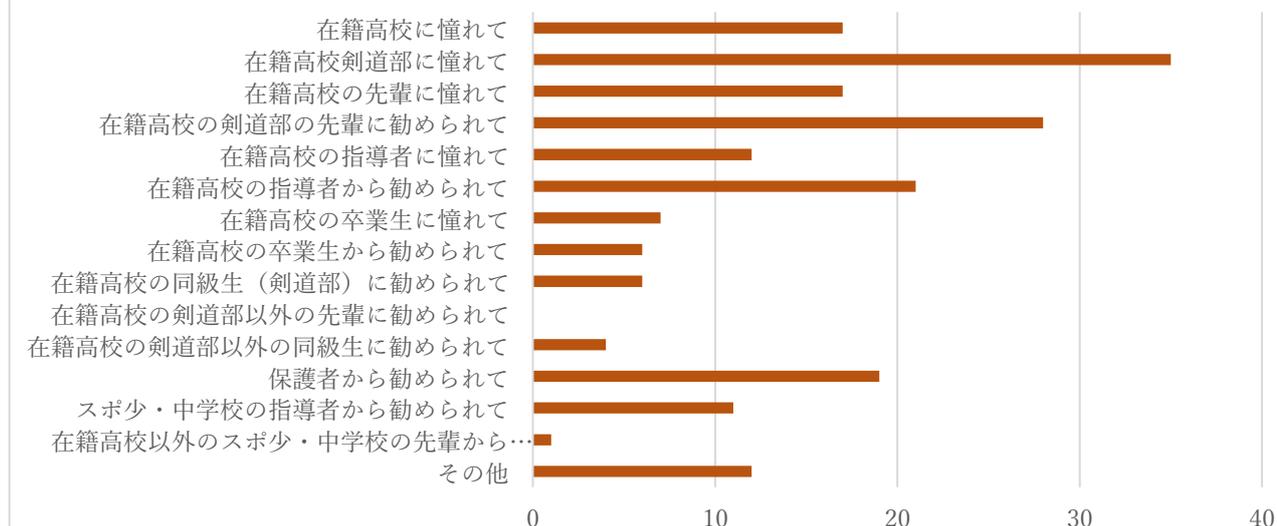
7 スポ少在籍経験



8 高校剣道部入部の決め手 (複数回答可：最大5)	1	在籍高校に憧れて	17
	2	在籍高校剣道部に憧れて	35
	3	在籍高校の先輩に憧れて	17
	4	在籍高校の剣道部の先輩に勧められて	28
	5	在籍高校の指導者に憧れて	12
	6	在籍高校の指導者から勧められて	21
	7	在籍高校の卒業生に憧れて	7
	8	在籍高校の卒業生から勧められて	6
	9	在籍高校の同級生(剣道部)に勧められて	6
	10	在籍高校の剣道部以外の先輩に勧められて	0
	11	在籍高校の剣道部以外の同級生に勧められて	4

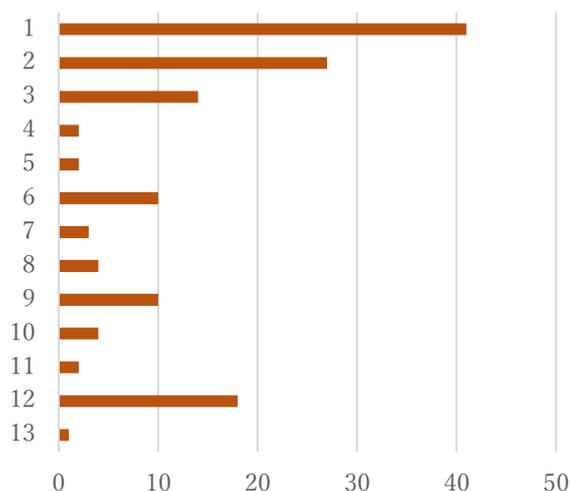
12	保護者から勧められて	19
13	スポ少・中学校の指導者から勧められて	11
14	在籍高校以外のスポ少・中学校の先輩から勧められて	1
15	その他	12

8 入部の決め手（最大5個選択）



9 剣道部入部の際に迷ったか？（複数回答：最大3）	1	迷わなかった	41
	2	他の部活動と迷った	27
	3	高校の剣道は厳しそうだから迷った	14
	4	先輩が厳しそうだから迷った	2
	5	指導者が厳しそうだから迷った	2
	6	勉強との両立が不安で迷った	10
	7	居住地から学校までが遠いので迷った	3
	8	髪形など自由にできなさそうで迷った	4
	9	休日が無さそうで迷った	10
	10	経済面で不安があつて迷った	4
	11	家族に反対されて迷った	2
	12	自分の技量が不安で迷った	18
	13	その他	1

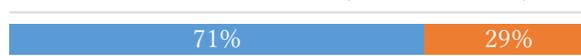
9 入部への迷い（最大3個選択）



10 合同稽古への参加

10 中・高合同稽古等への参加	1	参加したことがある	69
	2	参加したことが無い（→質問13へ飛ぶ）	28

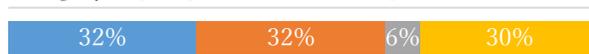
- 参加したことがある
- 参加したことが無い（→質問13へ飛ぶ）



11「10」で参加した方へ。受験する高校選びの参考になったか？	1	参考になった	22
	2	少し参考になった	22
	3	参考にならなかった	4
	4	わからない	21
12「10」で参加した方へ。高校剣道部へ入部したいと思ったか？	1	強く入部したいと思った	19
	2	少し入部したいと思った	23
	3	入部しなくなかった	2
	4	わからない	25

11 高校選びの参考になったか

■ 参考になった ■ 少し参考になった
■ 参考にならなかった ■ わからない



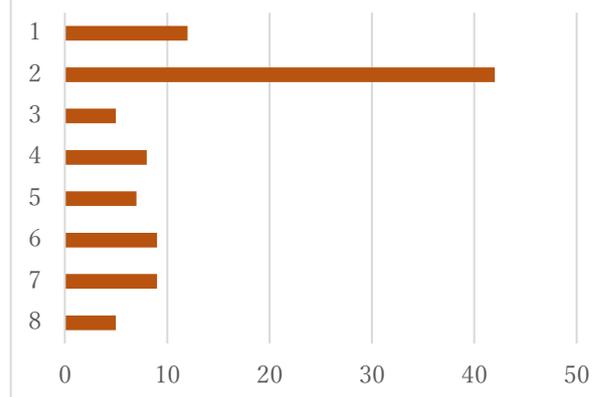
12 参加で入部の動機は

■ 強く入部したいと思った ■ 少し入部したいと思った
■ 入部しなくなかった ■ わからない



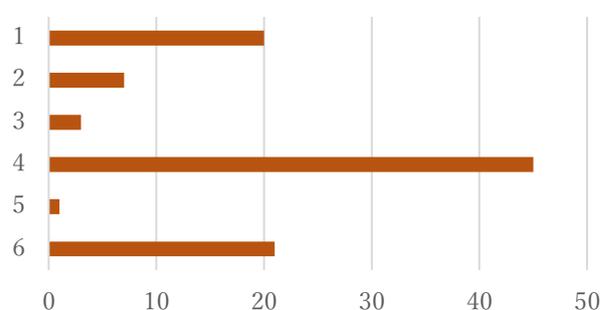
13 中学校剣道部員が高校剣道部への入部しやすくする方法	1	中体連と高体連との合同稽古や錬成会	12
	2	母校稽古など高校生が中学校への出稽古	42
	3	高校の指導者が各中学校へ指導する機会	5
	4	中学校の指導者の助言	8
	5	保護者の理解	7
	6	各高校で行う中学校との合同稽古や練習試合	9
	7	各高校での広報活動(学校HP、SNS等)	9
	8	その他	5

13 入部しやすくする方法



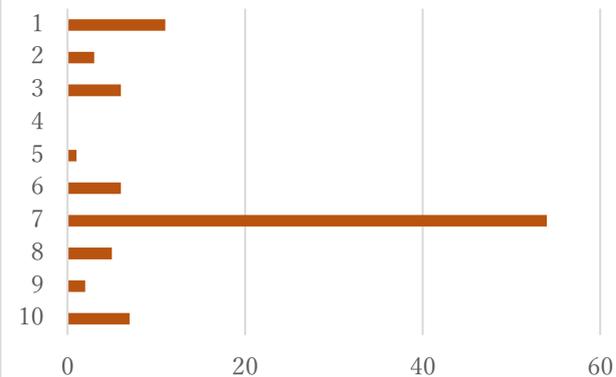
14 在籍高校や在籍剣道部の調査方法	1	各学校のHP	20
	2	各校剣道部OB会のHP等	7
	3	SNS	3
	4	各高校からのパンフレット等	45
	5	雑誌や新聞、学校誌等	1
	6	その他	21

14 高校の調査方法



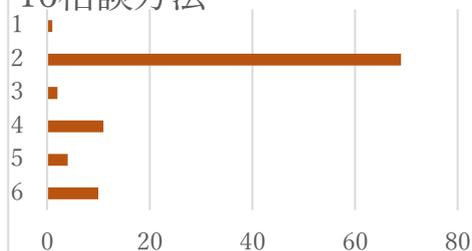
15 入部 する際 の相談 相手(一 番相談 した人)	1	在籍高校剣道部同級生	11
	2	在籍高校剣道部以外の同級生	3
	3	在籍高校剣道部の先輩	6
	4	在籍高校剣道部以外の先輩	0
	5	他校の先輩	1
	6	他校の同級生	6
	7	保護者	55
	8	中学校やスポ少の指導者	5
	9	在籍高校の指導者	2
	10	その他	8

15相談相手



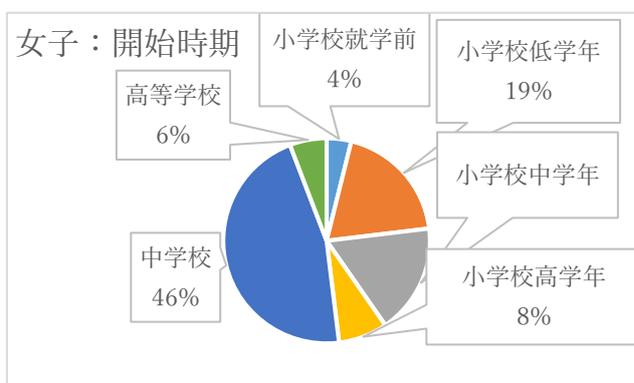
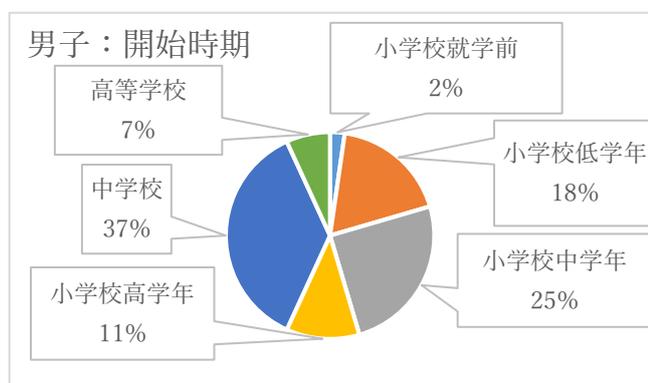
16 相談 方法	1	電話	1
	2	直接	69
	3	SNS使用で複数(グループチャット等)	2
	4	SNS使用で個別に相談	11
	5	個別メール使用	3
	6	その他	11

16相談方法

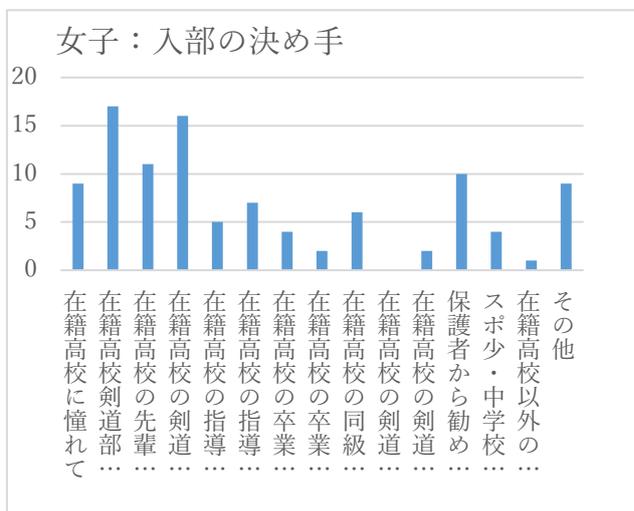
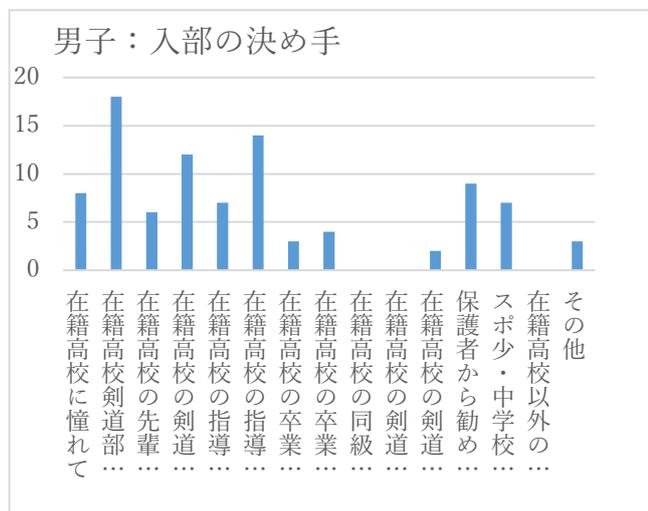


③クロス集計

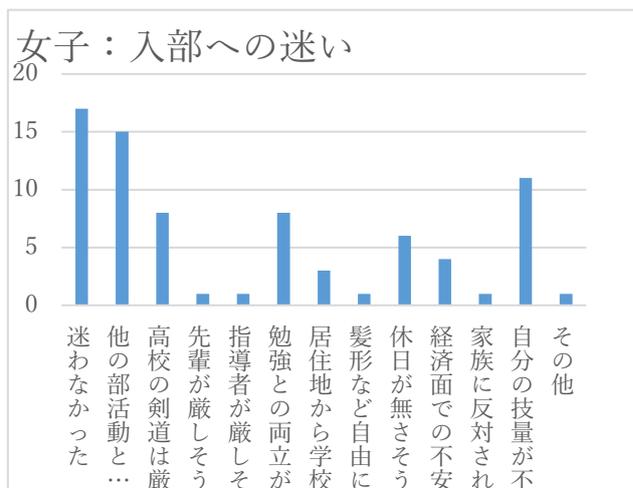
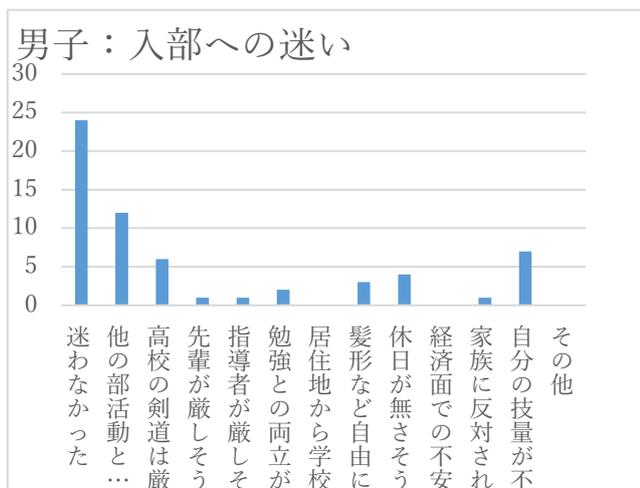
ア 開始時期男女別



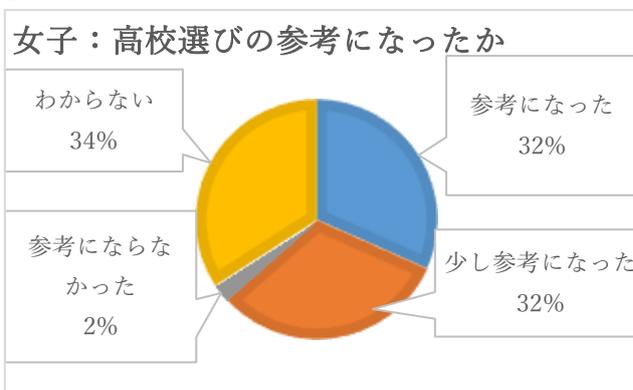
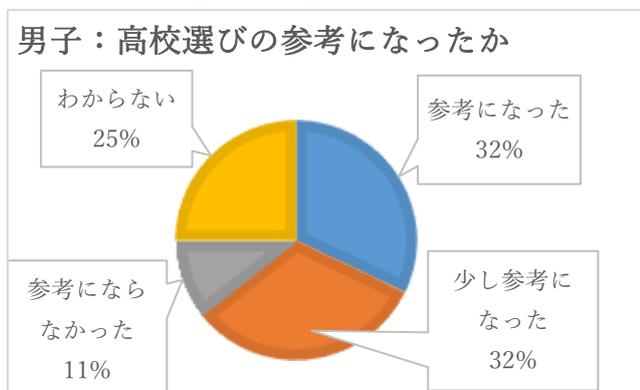
イ 入部の決め手男女別



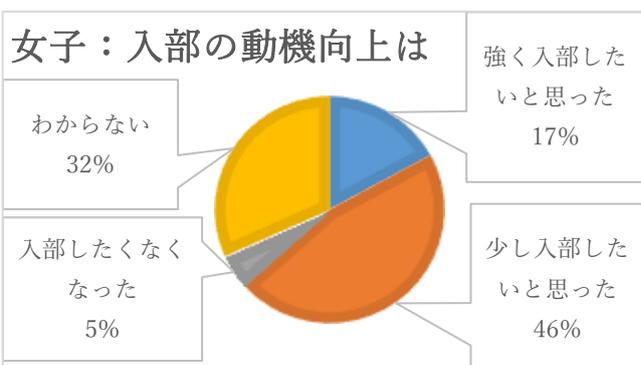
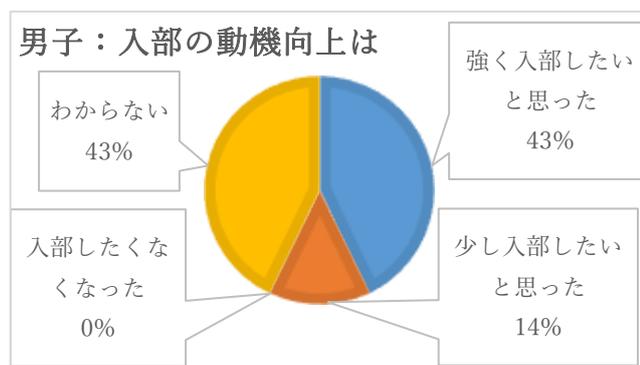
ウ 入部への迷い男女別



エ 中体連・高体連合同稽古等への参加で高校選びの参考になったか男女別



オ 中体連・高体連合同事業等への参加で高校剣道部へ入部したいと思ったか男女別



(2) 考察

ア 質問 6 から、中学校入学前に剣道を開始している生徒が 51 人で全体の 53%、中学校から開始した生徒が 40 人で全体の 41%である。これらから小学校又は中学校から継続して剣道を行っている生徒は 91 人、全体の 94%を占める。

男女別では、男子は中学校以前から開始している生徒は 56%、女子は 48%になる。女子は中学校から開始したものが約半数を占める。

この結果から男子は小学校から、女子は中学校から特に高校剣道部入部への継続率を高める方策が必要で、スポ少と中体連、高体連が連携して関わる事が重要になると考える。

イ 質問 7 からは、最も多かったのが「在籍無し」の生徒であった。中学校から剣道を始めた生徒 40 名の内、27 人 (67%) はスポ少に在籍していない。

中学校の状況を探ると、中学校から剣道を開始した生徒に、各学区にあるスポ少に在籍するかど

うかを問われる場合があるようだ。以前は半強制的にスポ少に在籍させていた時代もあるようだが、現在は本人と家族の判断に任せてスポ少に在籍するかどうかを委ねている結果であると推測される。

- ウ 質問 8 からは、在籍している剣道部に憧れて入部を決定している生徒が多いが、在籍高校の剣道部の先輩や指導者からの勧誘も決め手となっている。男女での大きな違いは、男子に多い「高校の指導者に憧れて」を選択した生徒が女子には少なく、女子に多い「在籍高校の先輩に勧められて」を選択した生徒が男子には少ない。

これらから在籍生徒を増やすには、中学生に魅力ある剣道部創りを指導者と生徒が行うことが第一条件となる。また、男子生徒を増やすには指導者自身の指導力や人間力も問われ、女子生徒を増やすには在籍生徒が後輩を育てる環境作りが重要だと思われる。

- エ 質問 9 からは、剣道部に入ると決めて高校入学した者は 41 人で全体の 42%。残りの 56 人(58%)については、迷いながらも剣道部を選択し入部している。特に、「他の部活動」と迷った生徒が多い。男女別では一項目を除きほぼ同様の回答となった。女子は「自分の技量が不安で迷った」生徒が多い。

約 6 割の生徒が迷って剣道部を選択していることに驚く。以前はどうだったのか非常に気になる結果である。また、女子の技量については、各中学校、各高校においてかなり差がある現状であり、高校生と稽古や試合をした経験がある女子中学生なら、この理由で迷うのも理解できる。

- オ 質問 10～質問 12 からは、中体連・高体連の合同事業等への参加状況や、参加することで高校剣道部への入部のきっかけになったかを読み取りたかった。

質問 10 から 71%の生徒が参加したことがあり、そのうち 64%の生徒が高校選びの参考になったと回答している。男女でも、ほぼ肯定的な回答が多いが、女子には「入部したくなくなった」と回答した生徒も 5%存在する。

また、参加生徒の 61%の生徒が高校剣道部への入部動機が上がっている。しかし、質問 11 で「3:参考にならなかった」を選択者が 4 名 (6%)、質問 12 の「3:入部したくなくなった」と回答した生徒が 2 名 (3%) おり、参加したことで入部への動機が下がった生徒もいる。特に質問 11 で男子では参考にならなかったという生徒も 11%存在する。

これらから、中体連・高体連の合同事業についてはある程度、中学生が高校選びの参考にしたり、高校までの剣道継続率を高めることに繋がっていると推察できる。しかし、参加したことで入部動機が低下している生徒もいるので、中体連・高体連合同事業を高校まで剣道継続率を高める内容に精選し開催していく必要があると思われる。

- カ 質問 13 は、「2:母校稽古など高校生が中学校への出稽古」を回答した生徒が圧倒的に多い。やはり、身近な先輩であった母校中学卒業生から直接に剣道や、高校の情報を収集できる機会が多い方が、中学生としては高校剣道部入部の障壁が低くなるようである。こういった機会を高校側がさらに作っていくことも人口増加の為には必要と考えられる。なお、母校稽古とは卒業した中学校に高校生が出向き、中学生と稽古することである。

- キ 質問 14 は、インターネットの普及で各高校の情報をどのように調べているかを知りたく設定した。結果をみると未だ、紙媒体での情報収集が主である。また、各高校のホームページからの情報収集も多いようである。これからは各校とも、ホームページや SNS 等を積極的に活用し広報活動を行なうことも人口増加に繋がっていくと考えられる。

- ク 質問 15 質問 16 からは、入部の際に最も相談した相手は保護者であり全体の 57%である。また、質問 16 から相談方法は直接相談である。このことから、高校剣道部への入部については保護者の方の理解と助言も大変重要であると再確認できる。次いで SNS 等を用いて保護者や同級生、先輩に相談している生徒もいる。

この質問項目を設定する際には、SNS での相談が多いと推測して設定したが、現実には保護者に直接相談していた生徒が多いことが読み取れた。

4 まとめ〈要約〉

本研究では、高校剣道部への入部の経緯やその理由などがある程度把握できたと考えられ、上記結果から本地区高校生は、在籍高校剣道部に憧れて入部を決意した生徒、迷いながらも剣道部へ入部した生徒が多く、剣道を続けていることが解った。また、男女では勧誘の仕方や勧誘者により入部しやすさが

変わることも読み取れ、入部に際しては保護者の理解や入部への勧めなどが重要であることも再確認できた。

中体連との合同事業については、中学生の入部動機が向上するような内容で、各高校の情報をさらにアピール出来得る場に設定して行くことが出来れば、本地区の高校までの剣道継続率はさらに上昇可能であり、さらに高校生が中学生に出向き稽古する機会が増えれば相乗効果も期待できそうであることも解った。

しかしながら、本研究アンケートのクロス集計では当初考えていた設定では回収数や高校種別が少なく個人や学校が特定されてしまうケースも有り男女別の観点でのみ分析を行った。よって、質問項目では関連性のない質問が有り、この研究に反映させられなかった。時間を惜しんで回答してくれた生徒の皆さんと、ご協力を頂いた顧問の先生方には謝意をお伝えしなければならない結果になった事が残念である。

今回、このような機会を頂き、改めて剣道人口を増やす、又は継続させる事を考える良い機会になった。高体連剣道専門部として構えて入部志願者を待つのではなく、高校剣道界の魅力や素晴らしさを伝える機会を多くし、中学生がどの高校へ入学しても剣道を続けられるように、高体連剣道専門部員が中体連、可能であればスポーツ少年団等と協力して剣道人口の増加や剣道を継続させる方策に尽力する必要があると思う。その方策の一助として本研究のデータが活かされれば幸甚である。

最後に、この研究の機会を与えて下さった山形県高体連剣道専門部の方々、調査用紙の収集などにご協力を頂いた本地区高体連剣道専門部の方々、アンケート内容の設定に深く関わってくれた米沢興讓館剣道部員と松村宜典先生に深く感謝しまとめとしたい。